

## 鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料(平成30年4月)

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況(図1、図2 - )  
大分県監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした(3月:60m)。
- ・地震や微動の発生状況(図2 - )  
火山性地震は観測されませんでした(3月:6回)。  
火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。
- ・地殻変動の状況(図3、図4)  
GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図1 鶴見岳・伽藍岳 噴気の状況(4月1日、大分県監視カメラによる)  
<4月の状況>  
大分県監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした(3月:60m)。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>)や気象庁ホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成30年5月分)は平成30年6月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平29情使、第798号)。

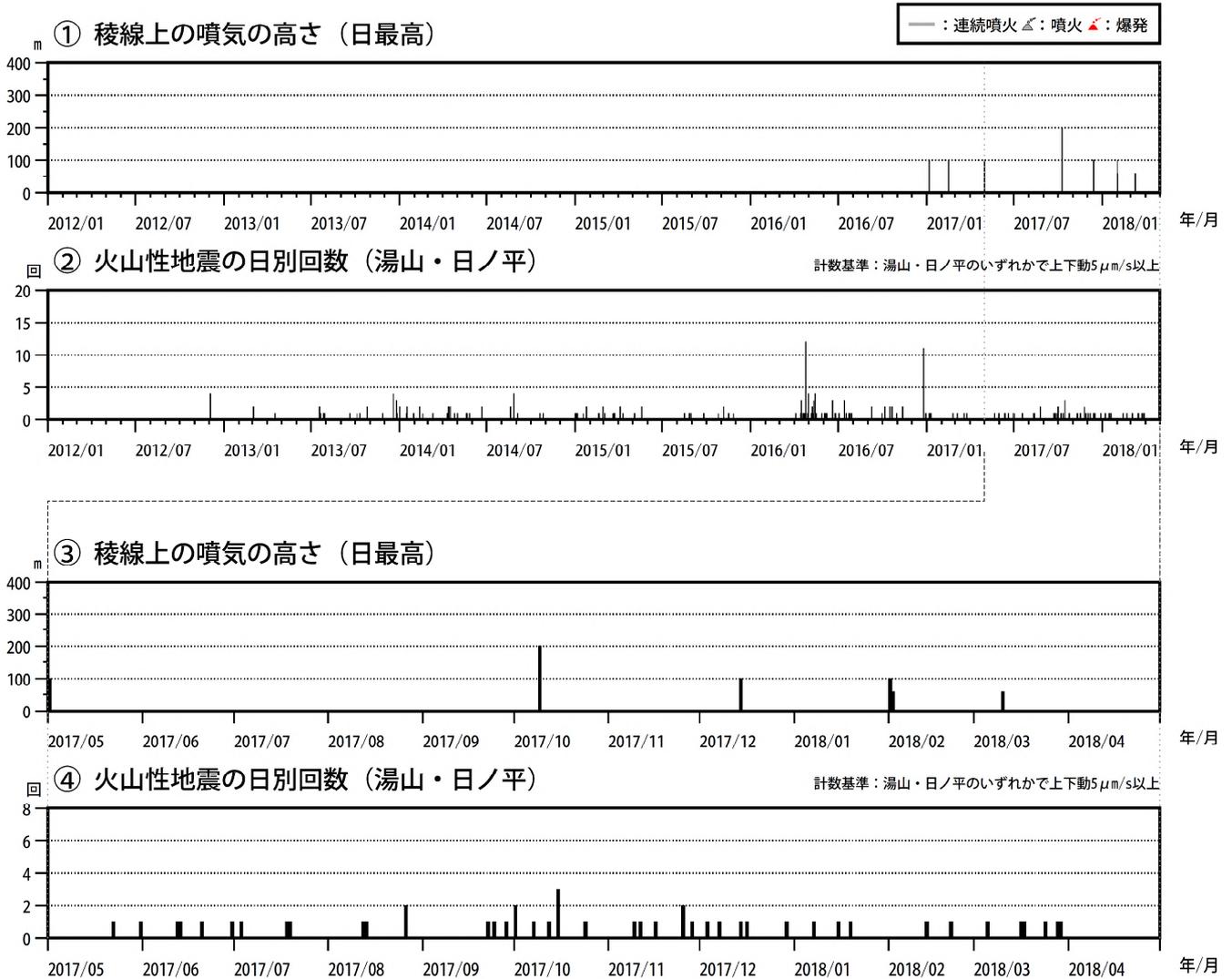


図 2 鶴見岳・伽藍岳 火山活動経過図（2012 年 1 月～2018 年 4 月）

< 4 月の状況 >

- ・大分県監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした（3月：60m）。
- ・火山性地震は観測されませんでした（3月：6回）。
- ・火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。

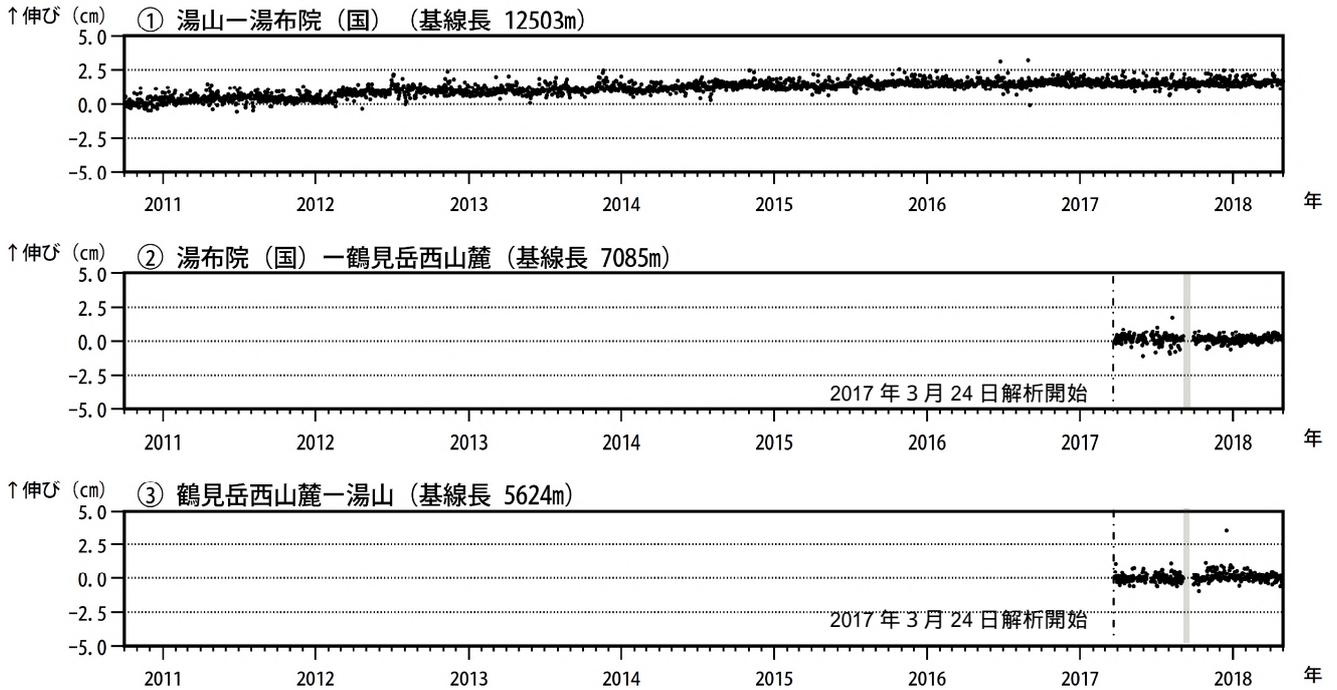


図 3 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2018 年 4 月）

GNSS連続観測では、火山活動によって考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図 4 の ①～③ に対応しています。

灰色部分は観測点障害による欠測を表しています。

2016 年 4 月 16 日以降の基線長は、平成 28 年（2016 年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

（国）：国土地理院

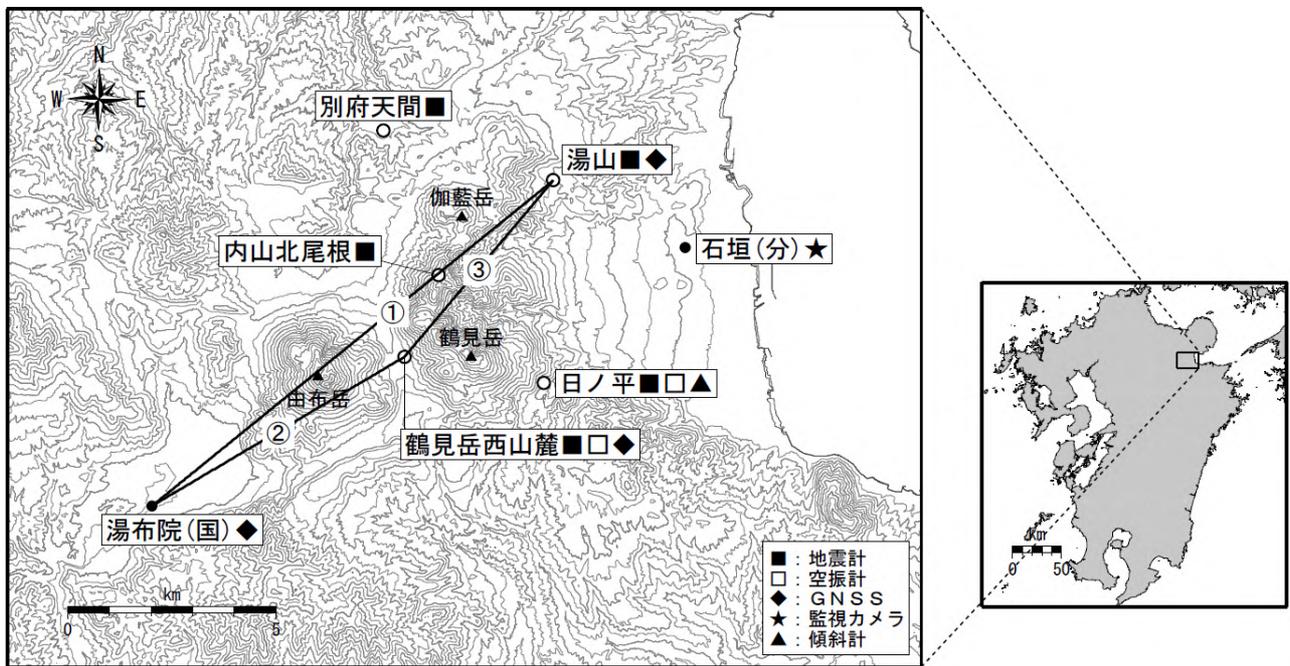


図 4 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図と GNSS 連続観測による基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

「石垣（分）」は大分県監視カメラを示しています。